

平成29年度 全国学力・学習状況調査
調 査 結 果

- | | | |
|---|---------------|-------|
| 1 | 調査の概要 | 1 ページ |
| 2 | 教科に関する調査結果 | 2 ページ |
| 3 | 質問紙調査に関する調査結果 | 3 ページ |
| 4 | 羽幌町の今後の取組 | 4 ページ |

平成29年12月
羽幌町教育委員会

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

- ① 小学校調査 小学校6学年
- ② 中学校調査 中学校3学年

(3) 調査の内容

① 児童生徒に対する調査

- ・ 教科に対する調査（国語、算数・数学）
 - 主として「知識」に関する問題（国語A、算数A・数学A）
 - 主として「活用」に関する問題（国語B、算数B・数学B）
- ・ 質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査期日

平成29年4月18日（火）

(5) 調査を実施した学校

羽幌小学校
羽幌中学校
天売小学校
天売中学校
焼尻中学校

2 教科に関する調査結果

(1) 教科に関する小学校調査の結果(国語、算数)

① 国語A

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題(15問)

■国語A全体の平均正答率は、全国・全道を下回っている。

※ 前年度の国語A全体は、全国を下回っているが、全道と同程度。

② 国語B

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題(9問)

■国語B全体の平均正答率は全道・全国を下回っているが、その差は縮まっている。

※ 前年度の国語B全体は、全道・全国を下回っている。

③ 算数A

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題(15問)

■算数A全体の平均正答率は全国を下回っているが、全道を上回っている。

※ 前年度の算数A全体は、全国を下回っているが、全道を上回っている。

④ 算数B

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題(11問)

■算数B全体の平均正答率は全国・全道を下回っている。

※ 前年度の算数B全体は、全国を下回っているが、全道を上回っている。

(2) 教科に関する中学校調査の結果(国語、数学)

① 国語A

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題(32問)

■国語A全体の平均正答率は全道・全国を下回っているが、その差は縮まっている。

※ 前年度の国語A全体は、全道・全国を下回っている。

② 国語B

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題(9問)

■国語B全体の平均正答率は全道・全国を上回っている。

※ 前年度の国語B全体は、全道・全国を下回っている。

③ 数学A

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題(36問)

■数学A全体の平均正答率は全国・全道を上回っている。

※ 前年度の数学Aも、全道を上回っており、全国と同程度。

④ 数学B

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題(15問)

■数学B全体の平均正答率は全国を下回っているが、全道を上回っている。

※ 前年度の数学B全体は、全道・全国を上回っている。

3 質問紙調査の実施

(1) 児童・生徒に関する質問紙調査

学習に対する関心・意欲・態度（国語、算数・数学、総合的な学習の時間への関心等）、自尊感情・規範意識、学習の基礎となる活動・習慣（言語活動・読解力、生活習慣、学習習慣、学習状況）に関する事項を主に、小学校92項目・中学校94項目について、児童・生徒に質問紙調査を実施

＜全道・全国と比較した主な傾向：小学校＞

- 一日の生活の中で、「テレビゲーム等をする時間」、「携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている時間」が多い傾向にある。また、「学校の授業時間以外に、一日あたりに勉強する時間」が少ない傾向にあり、「家で、自分で計画を立てて勉強している」割合が少ない傾向となっている。
- 「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う」割合が多い傾向にあり、「算数や国語の勉強は大切だと思う」割合が多い傾向にある。

＜全道・全国と比較した主な傾向：中学校＞

- 一日の生活の中で、「テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間」、「テレビゲーム等をする時間」、「携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている時間」が多い傾向にあり、「家で、学校授業の予習・復習をしている」割合が少ない傾向となっている。
- 「授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合いったりする活動に取り組んでいたと思う」割合が高い傾向にある。

(2) 学校に関する質問紙調査

教科指導（個に応じた指導、国語科の指導法、算数科・数学科の指導法）、学力向上（児童・生徒の状況、学力向上に向けた取組・指導法、家庭学習）、学校経営（地域の人材・施設の活用、教員研修・教職員の取組）に関する事項を主に、小学校では111の項目、中学校では109の項目について、学校に質問紙調査を実施

＜全道・全国と比較した主な傾向：小学校＞

- 「授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れた」、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた」割合が高い傾向にある。
- 「全国学力・学習状況調査の分析結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用した」「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行った」割合が高い傾向にある。

＜全道・全国と比較した主な傾向：中学校＞

- 「授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れた」、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた」割合が高い傾向にある。
- 「数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った」割合が高い傾向にある。

4 羽幌町の今後の取組

今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、小学校の全教科と中学校の国語Aでは、全道・全国の平均正答率を下回ったものの、昨年度と比べても全体的にその差が減少傾向にあり、中学校の国語B、数学Aにおいて全道・全国の平均正答率を上回るなど、各学校の取組の成果が表れた状況となっている。

これは、学力向上に関する取組の中で、朝学習、朝読書などの実施、学習規律の徹底、めあて・目標提示の徹底、授業の終末の工夫、補充学習の充実などの実践により、正答率の向上につながったものと思われる。また、児童・生徒に関する質問紙調査、学校質問紙調査から、学校の授業以外での勉強時間が少ない傾向にあるが、「家庭学習のすすめ」の配布や生活リズムチェックシートなどの活用による生活習慣の改善など、保護者への働きかけの成果がみられている。さらに向上を目指し、小中の連携や家庭・地域との連携の一層の充実が必要となる。

今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、小学校の国語A・B及び算数Bと中学校の国語Aでは、全道・全国の平均正答率を下まわったものの、